

地域計画

策定年月日	令和7年2月28日
更新年月日	
目標年度	令和14年度
市町村名 (市町村コード)	甲賀市 252093
地域名 (地域内農業集落名)	水口町巖峨 (巖峨)

注：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積（農業上の利用が行われる農用地等の区域）		86.9 h a
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積		86.9 h a
② 田の面積		86.9 h a
③ 畑の面積（果樹、茶等を含む）		0 h a
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計		14.1 h a
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計		14.1 h a
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計		h a
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計		h a
(備考)		

注1：①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2：②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積（現況地目）に基づき記載してください。

3：④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4：⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5：（参考）の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6：「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

70歳以上で後継者がいない農業者の農地が14.3haあり、将来14.3haの農地が流動化する可能性がある。大幅に農地を拡大できる中心経営体は「しまだファーム」と並行して、中心経営体として当地域での規模拡大を希望している田中道男氏と前田恭宏氏に農地集積を進めていく。 用排水路の老朽化や獣害も多発しており、栽培管理作業以外の農地管理に手間が増大している。 作業の効率化のために、農地の集約化（団地化）や新たな農地の受け手の育成、確保が必要。

(3) 地域における農業の将来の在り方（作物の生産や栽培方法については、必須記載事項）

粘土質土壌で排水不良の農地が多く、水稻を主体として農業生産を進めていく。飼料用米、米粉用米、オーガニック米など、ニーズに合った取り組みを進める。 今後農地の流動化が進むので、中心経営体の「しまだファーム」と当地域での規模拡大を計画している田中氏と前田氏に集積していく。また、中心経営体の農地を集約化して作業の向上を図っていく。さらに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受け入れを関係機関の協力を得ながら進め、中心経営体の確保を図っていく。また、集落で農地管理組合などを組織することで耕作放棄地が出ないよう農地の維持管理を進めていけるよう話し合いを継続する。中心経営体を支援するため畦畔の管理は地元の住民で組織する「草刈支援隊」を活動を充実していく。
--

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針					
地域計画に基づき、担い手への農地の集積・集約化を基本としつつ、小規模でも意欲のある中心経営体による農地の有効利用を進め、小規模農家から大規模農家まで一体となって地域の農業を守る仕組みを構築する。					
(2) 担い手（効率的かつ安定的な経営を営む者）に対する農用地の集積に関する目標					
現状の集積率	55.6	%	将来の目標とする集積率	73.4	%
(3) 農用地の集団化（集約化）に関する目標					
農地利用最適化推進委員等と調整しながら、担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を図る。					

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組	
農地利用最適化推進委員等と調整しながら、担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を図る。	
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
地域計画に基づき、現耕作者や地権者の意向を踏まえつつ農地中間管理機構への貸し付けを進め、段階的に集約化を進める。	
(3) 基盤整備事業への取組	
農地中間管理機構関連農地整備事業の活用による大区画化などを検討する。	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
規模拡大希望の担い手は地域内にはほとんどいないため地域外からの担い手に依存している。今までの農地の受け皿となっていた「しまだファーム」の規模拡大が限界となっており、地区外の田中氏と前田氏への集積を進めるとともに、集約化に向けて集落での話し合いを継続、担い手として育成していく。	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
畦畔の草刈作業を集落で組織した「草刈隊」に作業委託できるよう取り組みの充実をはかる。	

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください）

✓	①鳥獣被害防止対策	✓	②有機・減農薬・減肥料		③スマート農業		④畑地化・輸出等		⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等	✓	⑦保全・管理等	✓	⑧農業用施設		⑨耕畜連携等		⑩その他

【選択した上記の取組内容】
①イノシシの被害が拡大しないよう、集落環境点検の実施のうえ、ブロック単位で電気柵を設置するとともに、捕獲体制を充実する。
②環境こだわり農業に引き続き取り組む。
⑦全集落で農村まるごと保全向上対策に取り組む。
⑧農業者の高齢化と減少により農業水利施設の効率的な運営、管理のため農業水利組合のあり方を検討する。

4 地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度：令和 14 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
利用者		水稻・飼料用米	1.1 ha	ha	水稻・飼料用米	2.3 ha	ha	①	
利用者		水稻・飼料用米	1.7 ha	ha	水稻・飼料用米	2.4 ha	ha	②	
利用者		水稻・飼料用米	1.5 ha	ha	水稻・飼料用米	1.4 ha	ha	③	
利用者		水稻・飼料用米	0.2 ha	ha	水稻・飼料用米	2.8 ha	ha	④	
認農		水稻・野菜 ・飼料用米	1.7 ha	ha	水稻・野菜 ・飼料用米	2.1 ha	ha	⑤	
認農		水稻・麦・大豆	41.7 ha	ha	水稻・麦・大豆	45.6 ha	ha	黄	
認農		水稻・大豆・ 麦・飼料用米	0 ha	ha	水稻・大豆・ 麦・飼料用米	12.7 ha	ha	青	
認農		水稻・野菜	0 ha	ha	水稻・野菜	1.2 ha	ha	緑	
認農		水稻	0.1 ha	ha	水稻	0.3 ha	ha		
			31.2 ha	ha		15.4 ha	ha	白	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	10経営体		79.2 ha	0 ha		86.2 ha	0 ha		

5 農業支援サービス事業者一覧（任意記載事項）

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1		畦畔草刈り作業	水稻等

6 目標地図（別添のとおり）